

精神障がい者との交流が市民や学生に与える意識変化に関する研究

特定非営利活動法人 すまみらい

〒654-0012 兵庫県神戸市須磨区飛松町2-5-14

助成事業の概要

(1) 精神障がい者の体験談を聴き、その思いに触れる体験が、市民（特に学生）への精神障がいに対する正しい知識の普及啓発に、どのような効果をもたらすのか、②自分の病気等の経験を市民に語る経験が、精神障がい当事者の自己肯定感や尊厳の回復、社会参加の促進にどのような影響を与えるのか、ワークショップや当事者の「語り」などの実践を通じ、調査研究する。

【事業内容】

■実行委員会（7/14～計4回開催 / 構成：精神障がい当事者、大学准教授等計13名）

* (1) 情報交換、(2) 事業内容についての検討、(3) アンケート結果についての分析、(4) 各委員のファシリテーターやグループリーダーとしての知識やスキルの向上、(5) 事業のまとめ。

■神戸市立須磨翔風高校担当教師とワークショップの打ち合わせ（10/17）

■大学生対象啓発絵本読後アンケート（10/10、1/26、2大学148名対象）

*当法人が作成した精神障がいの体験をつづった啓発絵本を大学生に読み聞かせ、読後の意識変化等を調査するアンケートを実施。

■神戸市立須磨翔風高校ワークショップ（11/7～14、社会福祉基礎の授業3クラス7コマ、47名対象）

*精神障がい者の体験談～障害福祉事業所の紹介～フリートークと交流、精神障がい者の生活のしづらさを想像し精神障がい者にとって暮らしやすい社会をデザインするワークショップ。

■神戸市立須磨翔風高校ワークショップ参加当事者と実行委員による振り返り（12/15）

■神戸市立須磨翔風高校担当教師とワークショップの振り返り（1/9）

■アドバイザーとの話し合い（2/19）

■報告書の作成と発送（3/1～3/31）

事業の成果

■参加した生徒

「最初はどんな病気かも知らなくて、『怖い』という印象が強かったけれど、誰にでもなる可能性があると聞いて身近な病気なんだと感じました。」

「ワークショップを通じて、こころの病に対する社会のイメージの偏りを改めて感じた。自分も、こころの病にかかった人はかかってない人と全然違うと思っていたけど、そんなことはないと分かり、自分の無知さを感じた。これから社会全体としてこころの病についてしっかり知らなくてはいけないと思った。」このように、参加した高校生の多くが、自らの体験を語った精神障がい者に対し、共感、親近感を覚えるようになるなど、生徒の精神障がい者に対する印象の変化（好転）が顕著であった。また、精神障がい者を取り巻く社会的課題に対し、「自分たちも正しく知り、取り組まなければいけない問題。」と感じるなど、問題意識の萌芽が見られる生徒も少なくなかった。今後は支援者として精神障がいのある人たちと関わっていきたいとの思いを再確認する学生（福祉系大学）も複数いたことから、職業教育としても一定の効果があったものと考えられる。

■自分の体験を語った精神障がい当事者

ある当事者は「今の自分の状況を知り、振り返る良い機会。当事者委員一人一人が自分に向き合えた。当事者にとっても非常に大事だが、高校生にとっても精神疾患について理解が深まる。お互いに触発される。将来的に多くの方に精神障がいを理解してもらえるはず。取り組んでいる自分たちはすごいと実感できた。」と語った。この言葉からも、高校生が自分たちの体験を真剣に聴き、意識変化していく姿を見ることで、自分たちの体験的知識は障がいや社会福祉を学ぶ学生にとって貴重な社会資源であり、自分が固有の役割を担う社会的な存在であると認識するなど、当事者の自己肯定感を高める効果があったものとする。

■成果の広報、公表

・神戸市立須磨翔風高校におけるワークショップ実施に際し、須磨区自立支援協議会も共催団体として、協議会と関係のある個人や団体に広報活動を行った。また、神戸市教育委員会や神戸市須磨区社会福祉協議会にも実施前に広報を実施し、ワークショップ当日、神戸市教育委員会から2名、神戸市須磨区社会福祉協議会から1名、視察を受け入れた。2月7日、当法人主催でシンポジウムを実施し、その際、4年間にわたるこころの絵本プロジェクトの活動について報告を行った。当事業に係る活動について、当法人が管理するフェイスブックページ、ツイッター、ブログを活用し、こまめに情報発信を続けている。また、27ページにわたる報告書「精神障がい者との交流が市民や学生に与える意識変化に関する実践研究 平成26年度報告書」を作成し、行政、教育機関、関係団体等(80団体)に発送した。

■今後の展開

■高校ワークショップ

・神戸市立須磨翔風高校においては基本的には本年度と同じスタイルで実施していく。

・神戸市教育委員会にて実施する講演(神戸市立高校校長が全員出席)等の機会を利用して、他校での実施に向けたアプローチをしていく。

■大学生対象啓発絵本読後アンケート

・本年度実施校については、来年度以降も継続実施。

・他校での実施を目指す(福系以外の学生+50名ほど)。

■事業全体等

・当事者の声を反映した啓発絵本を作成するなどして、啓発ツールのバージョンアップ、開発を進める。

・すまみらいが活動する地域の児童民生委員等を対象としたミニワークショップを開催する。

・本プロジェクトに神戸市須磨区社会福祉協議会の地域福祉ネットワークの参画を求める。

・事業化を目指す(市の単独事業化)。その為、実績報告書や実施マニュアル等を通じた教育機関や行政機関に対する広報、啓蒙活動、須磨区自立支援協議会への提言等様々なソーシャルアクションを起こす。

・シンポジウムの開催などにより、当プロジェクトの活動を地域住民などに知っていただく機会を定期的に設ける。